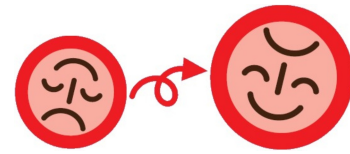


参議院議員

民主党国際局長、ネクスト沖縄・北方対策大臣
元財務副大臣
 ふじ た ゆき ひさ
藤田 幸久


スマイル 茨城



元内閣官房副長官補柳澤協二氏が講演



7月29日に都市センターホテルにて元内閣官房副長官補柳澤協二氏を講師に迎え政経フォーラムを開催しました。冒頭の挨拶で東京後援会会長の西川康雄氏が、「私の父の出兵の時の写真に40人の若者が写っていますが、その40名のうち日本に帰国したのは私の父1人だけでした」という話をされ、戦争の悲惨さを確認するムードに包まれた中、柳澤先生の講演に入りました。

柳澤先生の話のポイントは以下の通りです。

1. 安倍総理が常に「国民の生命を守るための法案」と言っているが、その旨は法律にどこにも書いていない。法案には日米同盟の強化が目的として読み取れ、自衛隊が各国の軍隊並みの武器使用ができるようになる。そして平時からの米艦防護ができ、世界中どこにでも行けるといことが書かれている。
2. 安保法制によって、自衛隊は米艦防護ができるという点から、実質的参戦及び事態の拡大に繋がる。一発の弾が戦争に巻き込まれる恐れがある法案である。
3. 自衛隊員の安全リスクが拡大するのが必至。イラク派遣の時、自衛隊は一発の弾も撃たなかったが、派遣隊員の自殺は1万人を3ヶ月間派遣した中で29人に及んでいる。日本全体の自殺は年間2万5千人ということを考えると、10倍以上の確率となる。イラクではあくまでも人道支援であった。今回の戦場に自衛隊を派遣するという法案では、犠牲者は更に増加する。
4. 存立危機事態における集団的自衛権という

のがそもそも矛盾である。存立危機事態というのは自国の存立危機であり、自国の防衛は個別的自衛権で実行できるのである。集団的自衛権というのは、他国の防衛の話であり、集団的自衛権を行使して自国を守るといのが概念的矛盾なのである。

5. 「存立危機事態」という立法事実の不在。安倍政権は我が国の存立危機事態を想定する場合として、具体的事例でホルムズの機雷掃海の話を用いているが、イランの核開発協議がスタートし、米国とイランの関係は改善の兆しを見せている。誰がホルムズ海峡に機雷を捲くのか？もう一度、前提や安全環境の変化も含め、衆議院の審議からやり直さなければならない。

6. 日米同盟の強化がはたして防衛力強化に繋がるのか？アメリカは国益重視で動く国であり、日本の無人島のために血を流すつもりは毛頭ない。たとえ日本がアメリカのために血を流す覚悟をしても、アメリカは動かない可能性がある。米中関係を洞察し、国益で動く大国の論理を理解すれば、安保法制が日本の安全向上に繋がるかは疑問だらけであり、逆に戦争へのリスクが高まる法案になっているのではないかと。

7. 安保法制は自民党の圧倒的多数で可決するだろう。それで終わりではない。自衛隊が最初の「一発」を撃つまで時間はある。自衛隊の武力行使は「国会承認」が必要であり、この場合参議院は衆議院と同格であり、参議院で否決されれば承認は出せない。次期参議院選挙が与党にお灸をすえる選挙として考えてほしい。

以上の内容でした。講演を拝聴し、日米同盟以外に外交安全保障の戦略がない日本に大きな課題があることを再認識しました。また、戦争現場に絶対に行かない人が勇ましいことを言い、現場の人たちの痛みを感じない人たちが法案を整備し可決しようとしているこの現状を何とか打破しなければならないと痛感した次第です。

活動報告



連合の重点政策説明会に出席しました。連合の古賀会長、民主党岡田代表も出席し、中身の濃い勉強が出来ました。



民主党シベリア議連の長妻昭会長、那谷屋正義事務局長と共に、アフナシェフ・ロシア連邦大使を訪問しました。



国際IC推進議員連盟で、カンボジアのソン・スーベール枢密院顧問官の特別講演会で司会をさせていただきました。



駐日外交官らを対象に「カフェ・デモクラッツ」を党本部で。藤田の歓迎挨拶の後、細野豪志政策調査会長が講演した。



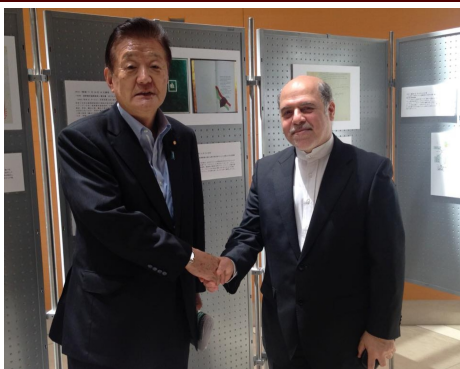
本年4月末に発生したネパールの大地震を受けて、現地で活動する日本のNGOとネパール政府に寄託。



北方領土を訪問。北方領土返還に向けての政治の責任と役割を、反省を込めて強く感じました。



国会前で、戦争法制反対の座り込みを続ける多くの市民の皆さんの激励に駆けつけました。僧侶や家族連れの方々も！



イラン大使館で開催されたイランー日本関係史講演会に出席しました。ナザルアーハリ大使主催です。



沖縄県企業誘致セミナーin東京に出席。翁長知事や下地商工労働部長がトップセールスを行っていました。

藤田 幸久 議員 プロフィール

初の国際NGO出身国会議員。スマトラ・ハイチ地震援助など世界51カ国を訪問。

- ◆1950年 日立生まれ
- ◆日立市二葉幼稚園・会瀬小・茨城大学付属中・水戸一高・慶應大学文学部卒業
- ◆難民を助ける会と国際MRA協会理事
- ◆1996年～衆議院議員当選(2期、東京)
- ◆2003年～民主党国際局長
- ◆2007年～参議院議員当選(2期、茨城)
- ◆2008年～参議院拉致問題特別委員長
- ◆2009年～民主党国際局長
- ◆2010年～参議院財政金融委員長
- ◆2011年～財務副大臣
- ◆2013年～参議院財政金融委員長
- ◆現在～参議院国家基本政策委員長
民主党国際局長、ネクスト沖縄・北方対策副大臣
横浜国立大学非常勤講師

民主党からのお知らせ

★党員・サポーターを募集中！

党員・サポーター登録を受付中です。多くの皆様の登録をお待ちしております。

◆党員：党費 6,000円

◆サポーター：会費 2,000円

党員・サポーターの方は、民主党の代表選挙の投票ができます。

☆インターン生・ボランティア募集☆

政治家の活動や政治や経済の現場を藤田幸久と行動を共にしながら勉強するインターン生も受け入れています。ボランティアも募集中です。

国会見学と国政報告会のご案内

国会見学は数名から、国政報告会はご自宅でのミニ集会も大歓迎！

メールマガジン/Facebook/Twitterで情報発信中！

ホームページからそれぞれ確認できます。是非登録をお願いします！